St. Luke's International University Repository

Disaster Prevention and Reduction Seminar for Women in Cooperation with Yokkaichi City Government: Applied Team-based Learning for the Class of Disaster Prevention from Women's Point of View

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 五十嵐, ゆかり, 田中, 宏和, Igarashi, Yukari, Tanaka, Hirokazu メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00013653

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

三重県四日市市における防災・減災女性セミナーの報告
―チーム基盤型学習を用いた女性視点の防災対策―

五十嵐ゆかり[1)]　　田中　宏和[2)]

Disaster Prevention and Reduction Seminar for Women in Cooperation with Yokkaichi City Government
―Applied Team-based Learning for the Class of Disaster Prevention from Women's Point of View―

Yukari IGARASHI[1)]　　Hirokazu TANAKA[2)]

〔Abstract〕

Yokkaichi City Government Office began disaster prevention and reduction seminar for women in 2013. The seminar curriculum consists of 12 classes; disaster prevention based on women's needs was introduced in the 5th class, 'disaster prevention from women's point of view'. This class applied team-based learning (TBL) as the educational method. After a lecture about important supplies for women during disasters and challenges women face while taking shelter, participants formed into teams of 5-6 people each. Each team engaged with each other to answer multiple questions and to discuss situation-based questions based on the lecture. The disaster prevention and reduction seminar was not only for training people, but also involved participants making a pamphlet and conducting a large-scale evacuation drill. Participant satisfaction using the TBL approach was high and participants also appreciated these activities. They indicated that they could now conduct disaster prevention and reduction activities in their community.

It is anticipated that the younger generations and families with small children could benefit from a TBL seminar and a follow-up of participants who completed this seminar could help build a network with them.

〔Key words〕 Disaster prevention seminar for women, Disaster prevention activity for women, Team based learning

〔要 旨〕

三重県四日市市は2013年度より防災・減災女性セミナーを開始した。12回のカリキュラムであるが，今回は第５回の「女性視点の防災対策」を紹介する。このセミナーの学習方法は，Team-based learning（TBL）を取り入れている。災害時に女性が必要な用品や避難所生活での女性の課題などについての講義の後，演習では参加者が５－６人でチームとなり，話し合いをしながら多肢選択問題や状況設定問題に取り組んでいる。アンケート結果から，TBL によるセミナーは参加者から高い評価を得るとともに，セミナーでの学びを生かした地域での活動の広がりも示唆された。

防災・減災女性セミナーは，人材育成のみならずパンフレットの作成や大規模な避難所設営訓練も行っ

1）聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
2）四日市市役所　危機管理室・Yokkaichi City Government Office Crisis Management Office

受付　2018年10月26日　　受理　2018年11月21日

ており，これらの評価も非常に高い。今後の課題は，若年層や子育て世代の参加や地域での更なる活躍を支援するための修了生のフォローアップやネットワーク作りである。

〔キーワーズ〕 防災・減災女性セミナー，女性視点の防災対策，TBL（チーム基盤型学習）

Ⅰ．はじめに

阪神・淡路大震災，東日本大震災の後，熊本地震，大阪北部地震，西日本豪雨，北海道胆振東部地震と災害が続き，近年大規模な自然災害が多い。このような状況もあり，多くの自治体が平時から住民に対して発災時の対応能力の習得や防災・減災意識の向上を目指し様々な取り組みを行っている。一般的に地域のハザードマップの内容確認や普段からの対策などの知識を習得する講座，発災時の対応力を向上するための防災・避難訓練などが多い。しかし，参加後のアンケートなどから，参加者は防災や減災対策の必要性は理解した，とのコメントはあるものの，実際には，例えば，食糧などの備蓄，耐震化率，家具固定率が進まないように，実際の行動には結びついていない。さらに，講座や防災訓練には意識の高いいつも同じ人々が参加し，参加者の偏りがある。

自治体が住民の防災・減災意識を向上するのには，発災時の被害低減や復旧・復興のスムーズな開始や進行，という理由がある。そのために，事前対策の啓発活動や，知識習得のため，地域に出向いた出前講座などを企画して防災・減災活動を進めている。それは，住民ひとりひとりが事前の備えを万全にしてもらうことによって，被災者を限りなく減らし，「助けられる人から助ける人」になって欲しいという思いがある。いわゆる自助の意識の醸成である。

しかし，災害が非日常にあると思われがちで，とりわけ育児や仕事に追われている子育て世代には，防災・減災活動への参加が少ない。災害時でも授乳やオムツ交換は必須で，そのためにはお湯，粉ミルク，オムツなど，場合によっては成人以上に備えを要する。そして，女性もまた必要とする用品が多い。生理用品や尿漏れパットなど，東日本大震災の時も不足し，非常に困った，という声も多くあった[1)2)]。さらに，物資の不足や生活環境の変化によってトイレや入浴の回数が減り，清潔維持や感染などの課題によってストレスが蓄積し，身体的な理由だけでなく，心理的な要因からも体調を崩すこともある。そのため，いかに防災をさりげなく日常に取り入れるか，そして，最も対策を促す必要がある人たちに興味を持ってもらうか，が鍵となる。この点を焦点化した取り組みのひとつを紹介する。

表1　過去5年の防災大学修了者

年度	防災大学修了生	女性内訳
2013	46人	4 人
2014	19人	5 人
2015	27人	1 人
2016	26人	4 人
2017	17人	0 人

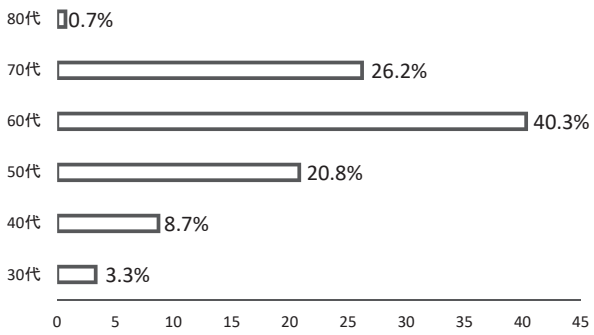


図１　防災大学修了者年代別（N=720）

Ⅱ．三重県四日市市の取り組み

四日市市は，防災・減災活動を推進するため2005年度より四日市市防災大学を開講して，防災・減災活動を担う人材育成を行ってきた。2017年度末で，723名が修了した。修了生は，地区の防災・減災活動でリーダー役を担うなどの貢献をしているが，しかし，修了者のほとんどが男性であり，その年代は60代以上が約72％を占める（**表１，図１**）。

東日本大震災発災直後，四日市市の防災・減災活動を見直すと，女性の参画や支援などの対策が行き届いていない現状であった。防災・減災活動を担う人々は，当時は多くが男性であることからも，平時から女性の月経を含めた体調の変化や生理用品などの必要な物品についての知識が乏しく，非常に困惑をしていた。そのため，女性の支援，男女共同参画の視点を取り入れた施策に取り組むことが急務であった。

また，既存の防災訓練や講座の参加者は，地域でリーダーシップをとっている壮年期後期・老年期の男性など，限定した人々に限られている課題もあった。地域の防災力の底上げのため，女性も含めた幅広い層に防災について興味・関心を持ってもらい，防災・減災活動に取り組んでもらう必要があるという観点から，講座の変革に取

表2　2018年　防災・減災女性セミナーカリキュラム

	内　容	講　師
1	災害について学ぶ	名古屋大学 福和　伸夫
2	災害と男女共同参画	早稲田大学 浅野　幸子
3	風水害，水防，初期消火	名古屋大学 田代　喬， 消防団，消防職員
4	気象について学ぶ	気象予報士 半井　小絵
5	女性の視点の防災対策	聖路加国際大学 五十嵐　ゆかり
6	災害図上訓練	山口大学 瀧本　浩一
7	都市防災について学ぶ	東京大学 廣井　悠
8	AED 講習 防災体制について学ぶ	消防職員， 関西大学 河田　惠昭
9	安島防災倉庫見学 防災マップづくり	市職員， みえ減災啓発支援ネット
10	避難所運営について学ぶ	みえ減災啓発支援ネット
11	自分たちでワークショップを開催してみる	
12	防災活動を学ぶ	三重大学 川口　淳

り組んできた。

Ⅲ．女性を支援する活動の取り組み

東日本大震災の際に避難所などで生じた課題から，防災における男女共同参画の重要性を認識し，2013年５月に内閣府が作成した「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」[3]を踏まえ，2013年度より四日市市では防災・減災女性セミナーを開始した。セミナーの目的は，地域の防災・減災活動に女性の視点がなぜ大切かを学び，地域の防災・減災活動に積極的に参加したいと考えている女性のきっかけづくりの場の提供，講座修了後，各地区の防災・減災活動に積極的に参画する女性の育成である。しかし，女性のみを対象にするのではなく，地域における交流も目的とし，2014年度からはカリキュラムを変更し女性だけでなく，防災・減災活動を担う男性にも災害時の女性支援について考える内容を取り入れ，参加を促した。また多様な背景をもった講師陣に各回のセミナーを依頼した。表２に2018年度のカリキュラムを示す（表２）。さらに，四日市市防災大学や防災・減災女性セミナーだけでなく，親子向けのファミリー防災講座，防災大学修了生を対象にしたステップアップ講座を開催し，幅広い世代に向けた人材育成を進めた。また，2016年より防災士養成研修として防災士の資格取得も可能となり，



図2　セミナーで参加者が用品を確認している様子



図3　チームでカードを使用して回答している様子

地域の防災・減災活動にも参画できる人材育成が体系的に進めていける環境が整備された。

Ⅳ．TBL による女性視点の防災対策

全12回の防災・減災女性セミナーのカリキュラムの中のひとつである第５回「女性の視点の防災対策」について紹介する。180分のセミナーで，日程は参加しやすいように土曜日の午前中の開催としている。構成は，講義と演習に分かれており，講義の後に確認のクイズをチームで回答し，その後チーム内でディスカッションを行う。このスタイルは，筆者が看護大学において学部生に授業を展開している学習方法であるチーム基盤型学習（Team based learning：TBL）を応用している[3]。

TBL は，チーム内チーム同士でディスカッションが進んでいく学習方法である。この防災の研修会においては，知識の定着を促すとともに参加者の交流を図ることを目的として導入している。本来，TBL では自己学習が必須となるが，このセミナーにおいては90分の講義で防災の知識を学ぶことで学習とし，演習でその内容をもとにした確認クイズにつなげている。そして，その知識を基盤とした状況設定問題に取り組み，チーム同士でディスカッションを行っている。

セミナーの内容は，まずは災害時に女性が必要となる用品について取り上げ，その必要性を男女で共有し，実際にそれらの用品の大きさや使用方法などを確認してい

る（図２）。また，避難所生活についても注目し，起こりやすい女性の課題を確認し，避難所生活のポイントや配慮が必要な対象への対応などを理解した上で集団生活においてトラブルが最小限になるための工夫を伝えている。その後，クイズへ回答する際は，偶然近くに座った参加者と５－６人でチームとなり，そのチームでディスカッションをし，多肢選択問題に取り組む。発災時は，全く知らない人とも協力が必要なこともあり，その訓練にもなることを説明している。図３はTBLで特徴的な一斉にチームの回答を掲げている様子である。

クイズの後は，講義とクイズに関連した状況設定問題に取り組む。このセミナーでは特に避難所への入所時の注意点や役割分担などに焦点をあてている。チームでディカッションした内容は，発表してもらい全員でアイディアを共有している。

Ⅴ．受講者の声

図４は，2017年度末の防災・減災女性セミナーの修了生の内訳である。30歳代は３％と少ないが，40歳代は約20％と参加者の年齢層が以前よりも若い世代に多くなっているのがわかる。

参加者からのアンケート結果では，大変興味深かった，興味深かった，と回答した人が92％であった。自由記載からは，「いろいろな工夫で代用できるものを知ることができた」「女性リーダーの大切さ，役割が良く分かった」などが記載されていた。また男性からは「女性ならではの視点を知ることできた」「男性と女性の視点の違いはあるようで，ないと思いこんでいた。支援するときにためになると思った」「うちに持ち帰って，女性用の準備について家族と話してみたいと思った」などの女性支援に役立てたい感想や実践につながるコメントもあった。また，TBLについては，「クイズをやってみてわかっていると思ったけど，ちょっと考えてしまった。確認は大事」「チームの意見をまとめるのは難しかった。でも男性と話し合いをすることで，災害時もこんな風に話していかなければならないと感じた」「一定の知識はあるにしても議論をする必要性，一人や二人の知識ではなく，底上げのシミュレーションになる」など，学習方法にも肯定的な感想が多かった。さらには，「地区の防災会議で話題にしたいと思う」「PTAのミニセミナーを企画していきたい」「TBLの手法で防災教室を考えてみたい」という記述もあり，参加者による地域での取り組みの広がりも期待できるコメントであった。

Ⅵ．活動の広がり

防災・減災女性セミナーを修了した後，地域での防災・減災活動を始めた団体を以下に紹介する。団体名は，「四日市市水沢地区連合会ガーベラグループ」である。団体の代表者は，四日市市が開催しているファミリー防災講座及び防災・減災女性セミナーを修了した。設立の経緯は，セミナーで学んだことや経験したことを広めたいという気持ちが防災活動を始めるきっかけになった，という。まずは，居住地区の防災意識の低いことに問題意識を感じたことから始まった。できることは何かと思案していたところ，住民から「女性の防災グループがあるといいのでは？」との声があがった。まさに女性セミナーの視点である。「防災，減災は女性や子どもの力が大きい。防災に関心をもってもらいたい」と考え，小中学校生の母親たちに声をかけ，2016年にグループを立ち上げた。現在の活動は，避難所運営シュミレーション（HUG），体験型避難シュミレーションゲーム，着衣で背浮き体験，子どもたちと一緒に炊き出し訓練，防災施設の視察研修，地区の文化祭において，災害時に女性の備えておきたいポーチの展示，災害時の備蓄に関しての意識調査や広報誌の発行などを行っている。このような活動を通じて，災害の怖さや避難生活の大変さを知り，普段からの心がけで防災・減災ができる事を実感できることを体験することを狙いとしている。この意識を，多くの地区の人々に様々な方法で発信していく活動を今後も継続していきたい，と語っていた。

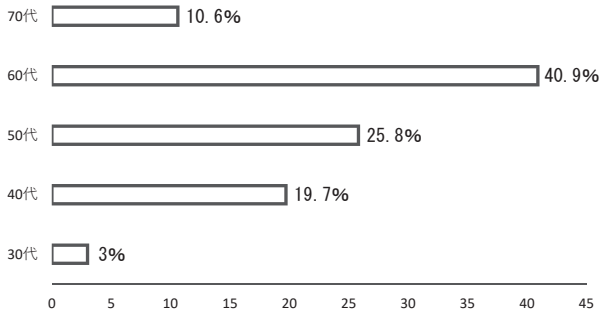
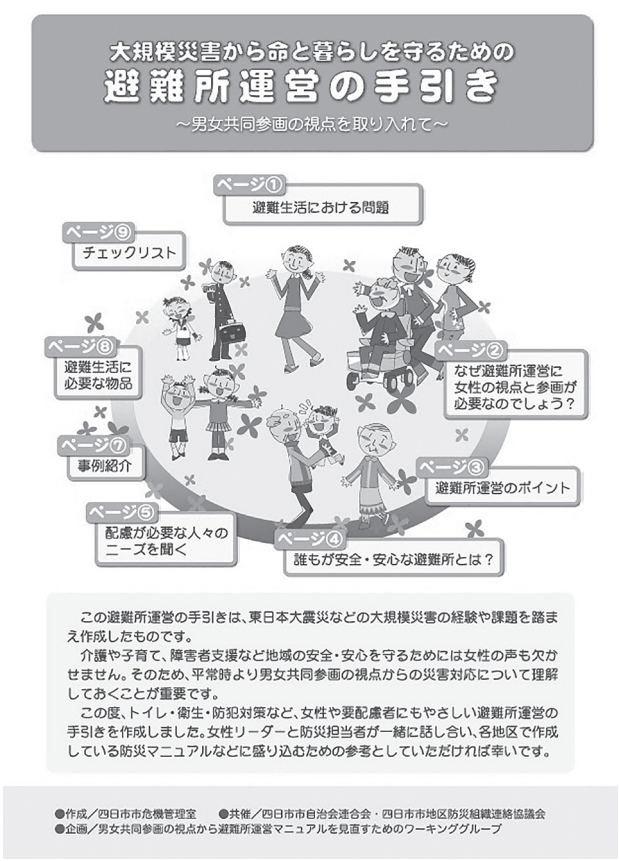


図4　防災・減災女性セミナー修了生（N=66）

このように新たに団体を立ち上げ，積極的に活動を行っている参加者もあり，地域への防災・減災女性セミナーの貢献がうかがえる。

Ⅶ．修了生とともにその先へ

四日市市は人材育成を進めるにとどまらず，地域で作成している防災マニュアルに男女共同参画の視点を取り入れるため，防災・減災女性セミナー，防災大学・ファミリー防災講座の修了生や有識者に参画してもらい，自治会や防災組織でワーキンググループを発足した。その後，東日本大震災などの大規模災害の経験や課題を踏まえた避難所運営の手引きを作成した[3)]。この作成には筆



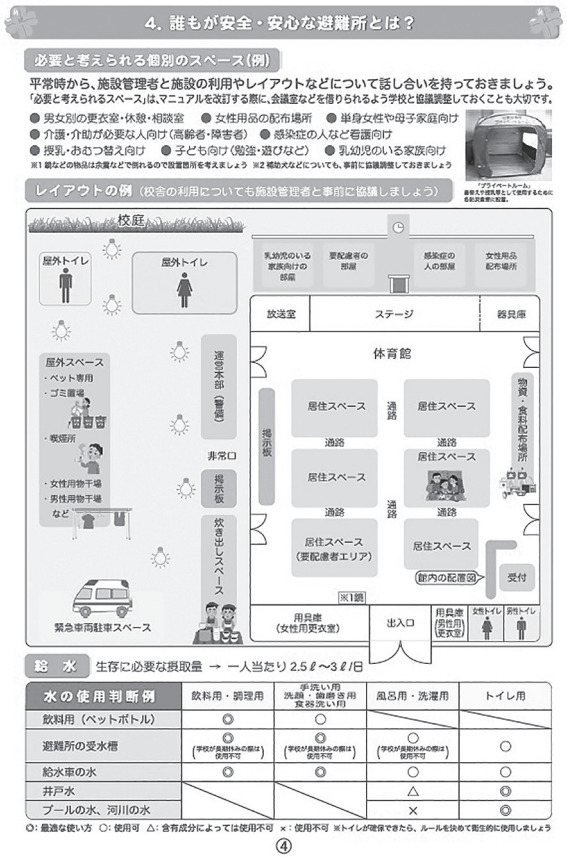


図5　避難所運営の手引き



図6　避難所運営について話し合っている様子



図7　避難所をゾーン分けしている様子



図8　段ボールベットを設営している様子

者も参画した。内容は，平常時より男女共同参画の視点からの災害対応についての理解の重要性，避難所のレイアウトを含めたトイレ・衛生・防犯対策など女性や要配慮者にもやさしい避難所運営を掲載している（図５）。この手引きは研修会などでも広く使用されている。

現在，避難所運営の手引きを自治会・防災組織と連携し，啓発を促進するとともに，実際に訓練体験することにより女性の支援活動の重要性について啓蒙している。2017年７月，市内の体育館において，作成した避難所運営の手引きを参考に避難所設営訓練を行った（図６，７，８）。初めて大規模な設営訓練を行ったが，参加者からは，避難所のレイアウトを考える上で，設営の方向性が参考になった，との声が数多く，作成した避難所の手引

きが有効なツールであることが分かった。

Ⅷ. まとめ

女性視点の防災対策を含めた防災・減災女性セミナーは，内容も学習方法も修了生から肯定的な評価を受けているとともに，その後の発展的な活動の一助ともなっている。今後も参加者の声を反映させながら，女性視点のセミナーの更なる内容の充実や学習方法の工夫をし，地域で応用できることを意識したセミナーにしていきたい。

今後の課題は，各講座の修了生は60代以上が半数を占めているため，若年層や子育て世代が参加しやすく，興味を持てるようなセミナーを開催すること，地域でのさらなる活躍のための修了生のフォローアップやネットワーク作りである。

引用文献

1）五十嵐ゆかり，加藤千穂，篠原枝里子ほか．東日本大震災における女性支援活動から見えてきたこと．聖路加看護大学紀要．2014；40：90-3.

2）加藤千穂，五十嵐ゆかり，篠原枝里子ほか．東日本大震災における女性支援活動「オンナのなっても袋」の配布と健康相談を通して．聖路加看護大学紀要．2014；40：80-3.

3）内閣府男女共同参画局．男女共同参画の視点からの防災・復興の取り組み指針；2015年［Internet］．http://www.gender.go.jp/policy/saigai/shishin/index.html［参照 2018-10-20］

4）五十嵐ゆかり編著．トライ！看護に TBL：チーム基盤型学習の基礎のキソ．東京：医学書院；2016.

5）四日市市危機管理室．避難所運営の手引き；2016年［Internet］．
前 半：http://gdrr.org/wordpress/wp-content/uploads/2016/04/hinanjomanual01.pdf［参照 2018-10-20］
後 半：http://gdrr.org/wordpress/wp-content/uploads/2016/04/hinanjomanual02.pdf［参照 2018-10-20］